



青森県 株式会社 カネマツ  
「東日本大震災被災地への支援活動」事業



株式会社 カネマツ  
常務取締役  
奥元光明さん



寄付金を贈った「NPO法人ジャパンハート こども・内科クリニック」

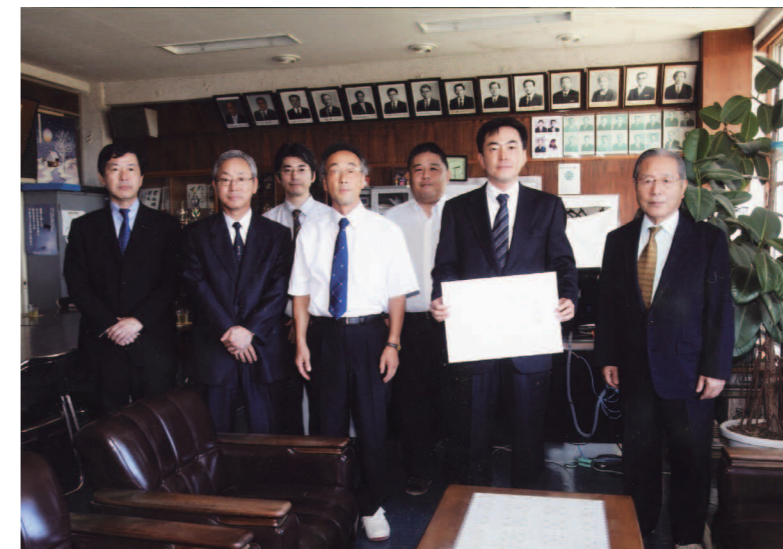
地域貢献を企業理念に据えて  
できることを着実に継続する

ジャパンハート こども・内科クリニックを支援

株式会社カネマツは神戸市に本社を置いているが、青森県に16ホール、北海道に16ホール、宮城県に3ホール、千葉県に1ホールと、東日本を中心に、「ライジング」、「ダスジャン」、「ビッグ」のホール名で計36ホールを展開している。1983年の設立ということで、ちょうど30周年の節目を迎えたところである。

設立以来、地域で商いをさせていただいている以上、地域に貢献したいという思いから、地域社会との関係づくりに努め、その輪を周辺へと広げていくことを目標に、さまざまな社会貢献活動に熱心に取り組んできた。最低でも月1回は地域貢献活動を実施するという方針のもと、業務時間中であっても、そのための活動をしてよいという会社の理解があるため、たとえば清掃活動や除雪作業など、従業員は各自できることを見つけて地域に飛び出して行く。そうした活動が地域の人々にも認知され、ペットボトルのキャップを回収して世界の子どもたちにワクチンを届ける活動では、わざわざ自宅から大きな袋に入ったキャップを持参する人もいれば、アルミ缶のプルタブを回収して車椅子を贈る活動でも、多くの遊技客の協力があるという。

そのカネマツでは、2012年9月、宮城県石巻市渡波地区にある「NPO法人ジャパンハート こども・内科クリニック」に対して、寄付金(100万円)を贈った。このクリニックは、ミャンマーやカンボジアなどで1万人以上の子どもたちの手術を行ってきた小児外科医・吉岡秀人氏を代表とするNPO法人ジャパンハートが運営している。渡波地区は東日本大震災の津波による激甚被災地のひとつだが、クリニックも医師も不足するなか、子どもたちが少しでも安心して暮らせるようにとの願いを込めて、診療活動を行っている。石巻市にもホールを置くカネマツでは、大滝雅之代表取締役を中心に、被災地支援を検討していたが、ジャパンハートの活動を知り、ほんの少しでも手助けができればとの思いから、今回の寄付を行ったという。クリニックのスタッフからは「大いに助かります」という言



直接、石巻市立開北小学校に行き、要望を聞いたうえで、校旗や一文字幕を贈った

カネマツでは、長年にわたり社会貢献活動に取り組み、数多くの感謝状を授与されている



葉と共に、感謝状が贈られた。カネマツでは今後も継続的な支援を行いたいという思いから、その活動をサポートするために設けられている会員制度の会員にもなっている。

分たちにできることを地道に継続していきたいという。

石巻市立開北小学校に校旗や遊具を寄贈

さらに東日本大震災の被災地支援として、カネマツでは昨年、石巻市立開北小学校に対して、校旗、一文字幕、LED防犯灯を寄贈した(210万円相当)。石巻市などを通して開北小学校を紹介されたというが、カネマツでは直接、小学校を訪問して、何を最も必要としているのかという要望を聞きとったうえで、当該物資を贈ったという。校長、教頭、PTAの方々から感謝の言葉をいただいたが、何よりもうれしかったのが、「子どもたちが寄ってきて、口ぐちに、どうもありがとうございましたという声をかけてくれたこと」だと、常務取締役の奥元光明さんは話す。

カネマツでは、前年も、ジャングルジム、滑り台、ブランコといった遊具を寄贈している。それに対する子どもたちからの感謝の声なのだが、それまで砂遊びしかできない状況に置かれていたためか、子どもたちは新しい遊具を大いに喜んだという。校長先生によれば、「開北小に通う子どもたちはもちろん、近隣に400世帯が暮らす仮設住宅があるが、その子どもたちにとっても欠かせない遊具となった」とのこと。カネマツでは、今後も支援について地域の要望に真摯に耳を傾け、地域にとって必要なこと、自



石巻市立開北小学校に、寄贈した校旗とジャングルジム